

第一章 守る――

「犯罪や事故のないまちに住みたい」地域の安全は住民みんなの願いです。安心安全なまちづくりのため、行政や地域ではどんな取り組みが行われているのでしょうか。

毎 日のように、犯罪や交通事故などの事件を耳にします。平成21年の熊本県の刑法犯認知の発生状況を見てみると、全体としては前年より減少していますが、この菊池地域は県内でも犯罪率が高く、盗難や万引きなどの犯罪が多く発生しています。

菊池地域の各市町では、住民の皆さんが安心して安全に暮らせる環境にするために、少しでも危険を減らそうと、不審者対策や交通事故防止のための見守りパトロールなどに取り組んでいます。また、各警察署でも、事件・事故を未然に防ぐためのパトロールやさまざまな相談を受け、活動しています。

しかし、その活動にも限界があり、行政や警察だけの力ではすべてをまかなうことはできません。それをカバーしているのが、地域で活動している防犯ボランティア団体です。地域により身近で、地域のことをよく理解しているボランティア団体の皆さんが、子どもたちの登下校時の見守りや声かけなども行っています。

県内の多くの地域が防犯ボランティア団体を立ち上げ、交通誘導や登下校時の見守りなどの活動が行われています。このような防犯団体の活動はとても頼もしいですね。警察でできることにも限界があるので協力し合えることは大変助かります。

日常の中でも防犯意識は役に立つ

個人でも防犯活動を行うことは可能です。例えば、見慣れない車が長時間止まっていたり不自然に感じたら警察に相談することや子どもが一人で歩いているのを見かけたときに覚えておくことは立派な防犯活動なのです。一人でもいる子どもは犯罪に巻き込まれやすくなります。もしも犯罪が起きてしまった場合、その目撃情報が重要な手がかりになることがあるのです。

いかに地域の手助けになるか―皆さんには、普段の生活の中でできる「防犯」をしてもらいたいと思います。警察もそのためのお手伝いをしていきたいと思っています。



菊池警察署 刑事生活安全課
井上 芳博 係長

どを行うことで地域の安全はさらに守られています。

そ の中で、今年1月に発足した合志市の「須屋コミュニティパトロール隊」は、県の事業である「安全なまちづくり推進モデル事業」を受けて、県北地域のモデル地域として活動しています。この隊では、コミュニティ内に居住する家庭からお金を集め、青色パトロール車で須屋コミュニティ内を巡回し、犯罪の抑制や未然防止のために努めています。県北では唯一の取り組みです。

このように、わたしたちの住むまちには、地域のため、みんなのために頑張っている人たちがたくさんいます。その人たちに支えられ、わたしたちは安心して安全に暮らしていくことができるのです。

そこで第一章では、被害者を出さないための取り組みをしている団体と警察署に防犯に対する思いを語ってもらいます。



菊池地域合同特集

取り返しがつかない大切なものがそこにあります

受け継がれるこの思い「自分たちの地域は自分たちで守る」

須 屋コミュニティは、合志市の人口の約20%を占めており、住宅地も多く、近年人口も伸び続けている地域です。この地域の9つの区が協力して今年1月に「須屋コミュニティパトロール隊」を発足しました。県の「安全なまちづくり推進モデル事業」を委託して活動しています。

活動は、徒歩や青色パトロール車を使った登下校の見守りや危険箇所の点検などです。メンバーの中には、「毎朝の登校を見守らないと1日が始まらない」と、防犯パトロールが生きがいになっている人もいます。

青色パトロール車で巡回を始めてか



須屋コミュニティパトロール隊

隊長 増田英雄さん ㊟
前隊長 辻 貞輝さん ㊤

ら、その区域での不審者の出没情報や落書きなどはなくなり、その効果を実感しています。

「自分たちで守る」

分たちの地域は自分たちで守る。それぞれの区で活動していた須屋コミュニティの区長たちは、この思いでつながりました。活動範囲は広くなりましたが、須屋コミュニティ自体は長い歴史もあるので、お互いに協力し合って続けられているのだと思います。今では学校の先生たちや保護者の人たちも児童や生徒の見守りに積極的に参加してくれ、この活動は広がりを見せています。住民の人たちも活動に参加してくれば、防犯に対する意識も高まることでしょう。

これからは若い人たちの参加と協力をもっと必要になります。安心・安全なまちづくりのために心がふれあうパトロールをしなければなりません。

話し合うことで気持ちは伝わる―この気持ちがあるから、わたしたちは多くの地区が集まっても協力してパトロールを続けることができます。これからも、もっと住民が手と手を取り合っているように―そのためには努力を惜しみません。

視点を広くすることで分かる大津町でできること

物事を広く、広域的に進めることで得られる効果はとても大きいものです。それは一見難しいように思え、始めることに戸惑いを感じるかもしれません。しかし須屋コミュニティパトロール隊の皆さんは一歩を踏み出しました。9つの区が集まり、範囲が広いにも関わらず「自分たちの地域は自分たちで守る」という目的を失わずに、その地域の協力も得ながら、活動していることがわかりました。

大津町の中でも多くの人が、地域のために子どもたちの登下校の見守りをしています。また青色パトロール車を使い、町内を巡回し、町から犯罪を無くすために日々活動しています。

わたしたちは少しの心がけからみんなを守ることができ「防犯」に取り組んでいくことができます。そして行動がつながることで町全体に広がっていきます。須屋コミュニティの人たちから得たヒントを生かせば、わたしたちの「防犯」活動も、もっと活発になるに違いありません。

大津町セーフティパトロール隊の皆さんも長年にわたり活動が続けて町の安全を守っています。写真左は、大田袈裟則隊長。

